

第22回 議会改革推進特別委員会記録

令和5年7月11日(火)
16時53分 ～ 17時10分
全 員 協 議 会 室

- 【委員】 牛尾委員長、西田副委員長
三浦委員、村武委員、小川委員、佐々木委員、田畑委員
- 【委員外】
- 【議長団】 笹田議長
- 【事務局】 下間局長（書記）
-

議 題

- 1 議員選出監査委員の廃止について
 - (1) 議会と監査をつなぐ仕組み（議選監査委員の活用）

 - (2) 監査委員の選出・任期

- 2 議会におけるICTの活用と推進について
 - ・電子採決システムの導入

- 3 その他

○次回開催 8月 3日(木) 13時 30分 ～ 第4委員会室

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[16 時 53 分 開議]

○牛尾委員長

第23回議会改革推進特別委員会を開催する。

1 議員選出監査委員の廃止について

(1) 議会と監査をつなぐ仕組み（議選監査委員の活用）

(2) 監査委員の選出・任期

2 議会におけるICTの活用と推進について

・電子採決システムの導入

○牛尾委員長

今日の資料の説明を局長から願います。

○下間局長

資料をいくつか入れている。こちらは議長会が毎年、全市調査しているものである。全体を入れさせてもらっている。その中で34、62、80ページが該当のところで、34ページについては直接今議論しているところではないが、関連して、議選監査委員が予算や決算委員会の委員に就任しているかどうかの状況調査である。

例えば、決算審査常任委員会を作っている市議会が16市あるようで、16市のうちの1市が監査委員も委員に就任している。決算審査特別委員会は504市が設置していて、そのうち90市が監査委員も委員に就任している。決算だけの委員会だと就任は少ない、除くところが多い。

予算決算常任委員会は140市が常任委員会化している。その85%が委員に就任している。予算と決算が一緒になっている委員会だと、監査委員も委員として就任していることが分かる資料である。

今直接議論はしていないが、また今後議論が進んでいったときに、浜田市議会の予算決算委員会委員に、監査委員が引き続き委員になってもらって良いのかという議論になったときの参考にしていただければと思う。

続いての資料は議選監査委員の選任廃止状況ということで、814市ある中で結局31市しか監査委員を廃止していない。まだ少ない状況ではある。

その下、16-7の一覧については、監査委員の廃止に関する条例を出したのが執行機関側なのか、所管委員会など議会側なのかを示している。執行機関側、市長提案のほうが多い。以上が監査に係る全国市議会議長会の資料である。

これは次の議題になるが、80ページの電子表決システムの導入状況について。「議会におけるICTの活用と推進について」というところで、全市の中で20.1%くらいの市議会が、電子表決システムを導入している。これは全国市議会議長会が出している実態調査結果に基づいた資料になる。

続いて議題1の、議選監査委員の廃止についてであるが、前回議論して、この特別

委員会の中で廃止はしない方向で決まったと思うが、続いて議会と監査をつなぐ仕組みづくり、監査委員の活用にはどういったことが考えられるか。先般の委員会では、例えば初日の全員協議会で監査委員に、9月定例会議に提案される監査意見書についての補足説明などをしてもらったら良いのではないかという話になったと思う。今、配信した資料は、令和4年9月定例会議初日の代表監査委員の説明で、本会議にて代表監査委員が説明をされている。各部長が決算議案の提案説明をした後に、認定議案について代表監査委員の審査結果の報告と、決算に基づく健全化判断比率と資金不足比率の審査の報告をしているのだが、それは代表監査委員がされている。おおまかにされており、これとはまた別にもう少し踏み込んだところを議選監査委員にしてもらおうというイメージなのかと、先般の特別委員会の中で思った。参考にさせていただければと思う。

○牛尾委員長

代表監査委員が言われた後に議選監査委員が、より突っ込んだことを言うイメージか。

○下間局長

これは本会議での報告で、この間話したとおり、これが終わった後の全員協議会になるので、もう少し細かいところに踏み込んだ話をしてもらえば良いと思う。監査の審査意見書以外のところで、まだまだ議選監査委員に何かしていただくというところでは、今これが令和5年度の監査計画で、令和5年度に監査委員がどのようなことをするかホームページに公開されている。定期監査、随時監査、行政監査などを大体何月くらいにやるかが載っている。前回参考にさせてもらった可児市議会も、こういった定期監査や行政監査を予算決算委員会の中に必要に応じて監査委員が説明されているようである。それは予算決算委員会の中で行われている。毎回やると決めているわけではなく、必要に応じて、これは議員に特にお知らせしておいたほうが良いというもの予算決算委員会の冒頭などで説明されている。こういうところも参考にさせていただきたい。これが議題1の議選監査委員についての資料である。

2番目の、議会におけるICTの活用と推進については、このように新聞にも載ったのだが、県内8市の中で、浜田市と大田市以外は電子採決システムを入れておられるようだった。浜田市が今後どうしていくかの考えを当委員会ですとまとめていくイメージである。次に配信した資料はこちらで作成した資料である。当特別委員会の検討項目としては、議会におけるICTの活用と推進について、という大きな検討項目にしており、その中でLINE WORKSの活用と電子採決システムの導入の二つがあったイメージだった。LINE WORKSについては先般の特別委員会で、いろいろな機能もあるので、11月の常任委員会改選後から議会全体で活用できるよう準備していこうということでもとまったと思う。

続いて(2)の電子採決システムの導入について今後考えていただく。導入による効果と、導入に当たっての課題をまとめさせてもらった。よその市議会が入れているからうちも入れようというのではなく、やはり必要だからとか、こういったメリットがあ

るからというのをしっかり議論した上で、入れるか入れないかを定めることが必要だと思う。導入には経費が掛かることなので、これくらいの経費が掛かっても入れるメリットがあるのかという考えもあるかと思う。

採決システムの種類ということで①、②と書いてある。

S i d e b o o k s のタブレット採決システムを活用する方法ということで、今このタブレットに入っているS i d e b o o k s にそういったシステムのアプリを入れることができる。初期経費が大体8万円、年額36万円。その機能を入れてしまえば特にそれ以外の経費が掛かるわけではない。本会議場にモニターなどがもちろん要るのだが、それは今年度買うことにしている。大型モニターで、オンライン委員会などにも活用できるので購入することとしている。したがってこうしたタブレットのアプリを活用する方法はある。

もう一つは、議場マイクがもう古くなっているのでそろそろ変えないといけない時期になっている。マイクの更新に伴って採決専用ユニットを活用する。マイクに外付けで用意した採決専用ユニットを活用する方法がある。これは初期費用150万円くらいと書いているが、これを1回入れてしまうと、もうずっと使える。年額費用などは不要である。マイクの状態が悪いので、いつの時点かで更新しなければいけないのだが、最近議場に設置するマイクは、採決システムとセットになっている傾向があるので、別々の購入ができるかはもう少し調べてみないといけない。

いろいろな種類があるが、これを導入すべきかどうかを今後議論していただきたい。結局、現在浜田市議会も簡易採決がほぼ8、9割で、それならば、わざわざ採決ボタンを押してもらう必要もない。そういったことも考えていただき、今後検討してもらいたい。入れるなら入れるなりのメリットがもう少しあったほうが良い。

○牛尾委員長

ただいま資料の説明があった。これは次回の委員会で議論したいと思う。あえて聞いておきたいことがあるか。

(「なし」という声あり)

次回は、8月3日の午後13時30分から第24回を開会するので、どうぞよろしく願います。以上で終了したい。

[17 時 10 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会改革推進特別委員会委員長 牛 尾 昭